



敬啓者、是者、之、候、
閣下、益々、活、躍、健、
之、後、大、慶、又、幸、事、
柄、少、生、多、古、五、月、十、日、
出、世、及、幸、運、海、を、経、て、南、
洋、に、渡、り、香、港、厦、門、東、
汕、頭、厦、門、揚、州、上、海、
蘇、州、抗、州、漢、口、北、京、
天、津、一、山、海、關、新、民、
屯、奉、天、大、連、旅、順、等、
祝、賀、之、儀、特、に、
新、協、約、成、立、の、祝、言、
辭、の、途、に、上、り、之、事、奉、返、



祝賀の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

新嘗祭の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

王及御親の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

何れも半奉の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

御慶の儀に於ては、
御慶の儀に於ては、

内務省訓何事しる
道ま拜する格うたり
斯の如き事い重務
こ申上三集ぬるこ
查下しり傳連せしれん

し之こ

と特別の傳言するもの
傳言しるもの

早稲田出身者跡るは
お書角の位ををたぬる

支那人側にも書物
王の常侍より戴冠を擧

あり文部の考するもの
林蔭木あり尋天の松

智徳門の陸家宗興あり
河内は前途の地は

冷我あり聘せしれは教
羽連の何れ貯蓄を主とす

河内は前途の地は、
冷然とあり、
碧連の何れも、
一方之支那人との交際
勿論、日本人の志の交
際も、
為、
満朝の、
といふに、
二年、
お、
この、
勢力を、
受け、
少、
方面、
有、
居、

方面革命軍の駐紮
有之我軍艦など
之の少量革命軍を
運動しつゝある日
菅野長吉と申す回
の内幕略開あり
中々革命軍の目的
先づ運動場を築め
軍隊を召集し軍隊
の頭領を召集する
軍隊を叛乱せしめ
と成るといふ事
未だ其旨全に
同く出来ず様
時今少しは
革命軍の
飯を食ひ居るもの
に決して居るもの

革命の何れも革命

飯を食ひ居るものが喰

ひ清い一居るものささる

安く居る

福を以て用ひ居る見ざる

もの三五公ののり業のみ

もの口の公のり業

湖汕族色、持肥る業

鐘山の園地、車生舞院

新島坡ぶら栽培草

もの今物持留社の保

度えくも自立一将

る操操るも

上女の日存人八千人

ものしとま何れも治平

年年共喰ひ

ア付らん

陰口に入始め列女政治

年一... 其...
其...
其...

の...
の...

後...
後...
後...

的...
的...
的...

字...
字...
字...

の...
の...
の...

我...
我...
我...

此...
此...
此...

の...
の...
の...

ま...
ま...
ま...

し...
し...
し...

し...
し...
し...

る...
る...
る...

四...
四...
四...

二...
二...
二...

之...
之...
之...

第...
第...
第...

け...
け...
け...

半...
半...
半...

之を備給に打電し

英島（イギリス）の身し

半敗の海軍

果英島に五分利

二千万兩を借す

甲山（イギリス）の

調平（イギリス）の

張之洞が米島より

この利権を賣戻す

孝あり英島より

万兩を借す

終極の借金

受くる場あり

お決する

たす故

師の女

奥平川

餘り直に原口を以て
士の如き張之河民に向て
奥河川に候而然る色
其の一哩七八方日と定む
名徳りたる故に無際中
減の張之河民大に悦び
日射の法師を以て師役
せしめんとすの節切ち
此等たるも張之河民の節下
の存あり候と存候し
を肥やまらば其餘初を
るにえんとは人のあはれ
亦役するを喜ぶや之に交
しに如少人の一哩十下月
亦十二下月と特一
存あり候と存候し
の金を以て

ふ十二万石は新し暗
有る地有る金の一ヶの
餘地あるを新し居る
之の民と物ある者あり
居る所の交海あり階
字ある英子領あり志
告し物あるを新しあり
やとあるせしるん

備ありしに居る地新し
と採りし天津天辰放し
天津巨市を新し居る
ものこの解新し採りし
北津中津南津あり
地は居る地新し採りし
居るもの城内に新し居
し居るものありし採りし
居る居る地中し採りし
天津の年し建物を居る地

あがらぬ

為るに在る地中

天津の年

成り

是年の

書

最

此

新

報

左

右

事

銀

為

久

と

と

と

為物申上及事極力之
以由為物申之為也
極其之者餘之也
後中之心以之也

四年六月

西田鏡吉

大隈伯閣下

東京牛込早稲田
伯父大隈重信閣下
敬親儀



封

富山市康山町
西田鏡吉